

## 主催者挨拶

日本医師会長 唐 澤 祥 人

先生方、おはようございます。

きょうは、早朝から今開会のお言葉にありましたとおり、本当に三連休の中の、また貴重な日をかような協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

平成18年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催に当たり、主催者としてご挨拶を申し上げます。

本連絡協議会は、日本医師会が主催し実施運営を開催県の担当で行うというものでございますが、本年度で27回目を迎えました。第1回は昭和56年に福岡県で開催され、当時は担当の医師会主催で開催されておりましたが、平成3年度より日本医師会の主催となりました。

日本医師会では、本連絡協議会を勤務医にかかわる重要な事業と位置づけておりまして、これまで勤務医の組織化、生涯教育、病診連携、卒後臨床研修、女性医師にかかわる問題など、多岐にわたる諸問題に取り組みまして、着実に成果を上げてきたものでございます。これもひとえに、都道府県医師会初め勤務医部会関係者各位のご協力の賜物であり、心より敬意を表する次第であります。

近年、我が国の医療環境は、少子高齢社会の進展や社会構造の変化に伴い、大変厳しい状況にあります。こうした中で、政府による財政優先の医療政策が、医療の質の低下を招きかねない状況となっております。

現在、勤務医の過重労働や医師不足が問題となっておりますが、これは政府の医療費抑制政策が基本的な要因と考えております。指摘されております診療科目の偏在、地域偏在は、医師養成の人数をふやしたただけですぐに解決できる問題ではありませんが、日本医師会は医療安全の面からも深刻な問題であると認識しております。



また、医師不足の要因の1つに女性医師にかかわる諸問題も挙げられておりますが、女性医師が安心して出産し、産休・育休を取り、円滑に離職せず職場復帰ができるという支援体制を構築する必要があります。

日本医師会では、これらの問題について関係委員会等で検討を行っておりますが、今回、本協議会のテーマ「勤務医のアンガージュマンを求める」とのメインテーマのもとに、本日のシンポジウムでも「勤務医の労働条件」がテーマに挙げられておりますので、勤務医の先生方からは、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

これらのさまざまな医療問題の解決には、医師会を中心として勤務医と開業医の大同団結がぜひとも必要であると認識しておりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ここに改めて、本年度の開催に当たりまして勤務医の現況調査を集計されまして、貴重な報告が行われるなど、準備運営のすべてをご担当いただきました埼玉県医師会 吉原忠男会長先生を初め役職員の皆様に衷心より感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

本日は、誠にありがとうございます。よろしく願いいたします。